

残火^{ザンカ}

作 斜田 章大

登場人物

道久	峠 ^{とうげ} 道久 ^{みちひさ}	一九八九年（平成元年）生まれ。小さなカメラ屋の一人息子。
火花	荻窪 ^{おぎくぼ} 火花 ^{ひばな}	一九八九年（平成元年）生まれ。片腕。
歩鳥	平坂 ^{ひらさか} 歩鳥 ^{ほとり}	一九八九年（平成元年）生まれ。道久、火花の同級生。
皐月	平坂 ^{ひらさか} 皐月 ^{さつき}	一九九二年（平成四年）生まれ。歩鳥の妹。
哲男	峠 ^{とうげ} 哲男 ^{てつお}	一九六六年（昭和四十一年）生まれ。道久の父。
初枝	大峰 ^{おおみね} 初枝 ^{はつえ}	一九四七年（昭和二十二年）生まれ。火花の祖母。
少年	道久の幼少期	
少女1	火花の幼少期	
少女2	歩鳥の幼少期	

※少年は道久、少女1は火花、少女2は歩鳥と兼ねても良い。

舞台設定

愛知県名古屋市から北へ少し。小さな町の既に活気のない商店街。そのこの片隅にある写真屋が今作の主な舞台だ。

建物は二階建てで一階が店舗。

上手にはけるとバックヤードがあり、その階段から二階に上ると、道久と哲男が住む居住空間がある。

下手側は店舗玄関。

玄関周りにその時代の売れ行きの良い商品が並び、

真ん中付近には椅子と机が置いてある。

上手にはカウンターがあり近くには消耗品が置いてある。

カウンター奥には背の高い棚。

もしも舞台空間が広ければ、簡単な撮影スタジオが併設されても良い。

	各章開始日	年齢				備考
	和暦	道久	皐月	哲男	初枝	
	西暦	1989/5/1生	1992/4/28生	1966/5/15生	1947/12/2生	
0幕	H7.1.17 ----- 1995/1/17	5歳	2歳	28歳	47歳	道久 小学校入学直前
壹幕	H8.7.17 ----- 1996/7/17	7歳	4歳	30歳	48歳	道久 小学校1年生
貳幕	H13.8.29 ----- 2001/8/29	12歳	9歳	35歳	53歳	道久 小学校6年生
参幕	H23.2.25 ----- 2011/2/25	21歳	18歳	44歳	63歳	道久火花は高校卒業後就職して3年目 歩鳥は看護学校（3年制）卒業目前
四幕	H25.9.7 ----- 2013/9/7	24歳	21歳	47歳	65歳	
伍幕	H31.4.1 ----- 2019/4/1	29歳	26歳	52歳	71歳	同年5月で道久は30歳

平成七年一月一七日

暗闇。唐突に、
あなたの耳に声が届く。

道久
遡れる多分、一番最初の記憶として

カチリと音がして舞台に小さな火が灯る。
目が慣れれば、それはライターの火だと分かるだろう。
男は更に言葉を紡ぐ。

道久
テレビで燃え盛る街を見た

火はごおごおと音をたて、勢いを増して世界を赤く染める。
ようやくあなたには舞台の全貌が見え始める。
平成の初期、神戸の街並みが炎に燃え上がっている。
それを草臥れた男（峠 道久）が呆然と見ている。

彼はライターを消すが既に火は十分に広がっている。彼の胸元には首から下げられた大きなアナログカメラ。戸惑うように炎を見ている。

四方八方から大音量で聞こえるのはニュースの音声である。

「今、大きな地震が起きました。テレビの前の皆さんは安全な所に避難してください。繰り返し、今、大きな地震が起きました。テレビの前の皆さんは安全な所に避難してください」

「ご覧のように、阪神高速が倒れています。二〇〇メートルか、いえ、三〇〇メートルあるかも知れません。完全に横倒しになっています。この付近ではまだ消火活動は行われておりません」

「至る所で、大きな煙が昇っているのが見えます。大変……大規模に燃え上がっているのが分かります。この上空からでも、かなり視界が悪くなっています」

道久

ニュースキャスターがどんなことを言っていたかは覚えていないけれど、なんだかとっても怖いことが起こったのだとは、子供心に分かった。毛布にくるまってガタガタと震える僕に父さんは、おしるこだったか、ホットケーキだったか……とにかく何か甘いものを作ってくれた。そして、ぽつぽつと、テレビからは目を逸らさないままゆっくりと言った

道久の視線の先には一人の少年と一人の男。

子供時代の道久（少年）とその父（哲男）がテレビを見ている。

哲男 大きいなあ、地震が起こったんだわ

少年 ……

哲男 ここにもそのうちどでかいのが来るに

少年 いつ来るの？

哲男 いつかは分かんけど…いつか、来るなあ。その頃、お父さんが生きとるか

は分かんけど…道久が生きとる間には、来るに。間違いなく、来るわ

道久 それは、僕が遡れる一番最初の記憶で、初めて「おしまい」を理解した日。ヘ

リコプターから撮影される街。あちらこちらから立ち昇る黒々とした煙。飴細工みたいねじ曲がった高速道路、商店街のアーケード。引きちぎられたように倒れるビル。家、車、車、車。ボンネットには少し血が付いているのも見える。そして何より火。真っ赤な火。真っ黒な煙。広がっていく、サイレンの音。ヘリコプターの音。何かの崩れる音、音、音、叫び声。僕はそんな映像を見ながら、初めて「ああ、おしまいだ」と思った。そして、ぼんやりと、自分はきつと「その日」に、ここに地震が起こる日に、「おしまい」が来るのだと思った。

道久 でも火花は違った。火花…荻窪火花は、その燃え盛る街の中にいて「始まった」と思った…らしい。「なにかの終わり」は、なにかの始まりだ」。

道久 初めて会った日、火花は僕にそう言った。それはあの地震からだいたい一年半後で、が小学校一年生のときのこと。確か、夏休みに入る少し前。とてもとても、暑い日だった

道久がシャツターを切る。フラッシュの光があなたの目をうつ。その残像が消える頃、

【映像あるいは群読】

平成七年一月一七日 阪神淡路大震災。マグニチュード7.3。最大震度七。

犠牲者の〇〇〇人超

平成七年三月二〇日 地下鉄サリン事件。負傷者数五八〇〇人以上。うち死者一三名

平成七年七月一日 PHSサービス開始

平成七年八月二四日 Windows95発売。同年十一月、日本語版発売

平成八年二月一四日 棋士・羽生善治、将棋界初の七冠制覇

平成八年七月一日 大腸菌O157による集団食中毒事件

壹幕 平成八年七月一七日

再び、カメラのフラッシュ。

同時に舞台に明かりと音を取り戻される。

夏。時刻は夕方である。

愛知県名古屋市から北へ少し。まだ昭和の名残も残る小さな町の商店街、その道路。

幼少期の道久（少年）がインスタントカメラを持って何かを撮っている。

少年
.....

そこに左手の無い少女が通りかかる。

荻窪火花だ。

しばらく、火花は道久を見下ろしている。

と、おもむろに話しかける。

少女―
なに撮ったんの？

少年
なに？

少女― だから写真やる。なんの写真撮ったの
少年 蟻だよ
少女― 蟻？
少年 うん
少女― なんて蟻の写真なんか撮ったの？
少年 けいちゃんがね
少女― けいちゃん？
少年 あ、うん、同じクラスの鈴木圭太くんがね、さっき、ここの蟻の巣を水没させてね
少女― ふーん
少年 それで行く場所がなくなった蟻がね、巢の、もう元巢だけど、巢の周りを歩いてるから、写真を撮ってるんだよ
少女― 蟻の巣に水を入れた奴はどこ行ったん？
少年 みんなは、ポケモンやりに多田くん家に行っちゃった
少女― あんたは行かんのか？
少年 僕ポケモン持ってないから
少女― ふーん
少年 うん
少女― ……なんで写真撮るだけなん？

少年　　なんで？
少女―　助けてやろうとか思わんの？

少年　　…

少女―　…

少年　　あー、そうだね、助けてあげたほうがいいよね、今思い付いた

少女―　…

少年　　でもどうしたら助けてあげられるんだろう

少女―　…

火花、何も言わずに蟻の群れを思いっ切り踏みつける。

少年　　…

少女―　…：…あんだ、なんかムカつくな

少年　　…：…ごめんなさい、荻窪火花さん

少女―　え、なんで名前知ったんの？　学校違うやろ

少年　　火花さんのことは、近所のみんな知ってるよ

少女―　これ？

火花は右手で自らの左手を指す。彼女の左手は肩の先からが欠落している。

左手の袖は所在なくたなびいている。

少年 ……（無言で首を縦に振る）

少女― ちっ

火花、また蟻を殺し始める。

少女― あほばっか。こんなことで大騒ぎして、だから田舎は嫌いや

少年 その手どうしたの？

少女― 地震や。本棚の下敷きになった

少年 荻窪火花さん

少女― なに？

少年 写真を撮ってもいいですか？

少女― なんで？

少年 かつこいいものを撮るのが好きだから

少女― 片腕がかつこよく見えんの？

少年 片腕じゃなくて火花さんがかつこよく見えるから

少女― ……ふーん

少年 ……

少女― あんた、名前なんて言うの？

少年 道久。峠道久

少女― ……聞いたことある。写真屋のこの

少年 うん

少女― お母さんがおらんのやろ

少年 うん、死んじゃった

少女― 私はお父さんもお母さんも死んだよ。二人ともあの地震で死んだ。だから私の

ほうが上や

少年 二人とも死んでるほうが上なの？

少女― 死ね！

片腕で殴る。蹴りもする。

少年 ごめん。ごめんなさい荻窪火花さん

少女― すぐ謝るなお前

少年 ごめんなさい

少女― 謝るってことは負けを認めたってことやよ

少年 ごめんなさい

少女― 私はなあ負けたくないねん。誰にも。何にも。実際あの地震にも勝ったよ。お父さんもお母さんも左手も持ってたけどな、私の命だけは持ってかれへんかった。私はあれに勝ったんや

少年 ……

少女― ここもそのうちすごい地震くるらしいやん

少年 え？ うん。そうらしいね

少女― あんたなんかぽけっとしてるから、地震来たら死んでまうかもな

少年 うん、死んじやうと思う

少女― 私は死なんよ。私はあれに勝った女やからな、そうそう負けれん。絶対に地震じゃ死なん

少年 ねえ、写真撮っていい？

少女― いつも写真撮りよるの？

少年 うん

少女― じゃあ明日、今まで撮った写真見せて。それが良かったら撮らしたる

少年 ほんと？

少女― いいの撮れたら、使うたるよ。うちな、将来作家になるから

少年 作家？

少女― 作文でな、賞取ったことあるんよ。知事賞。腕こうなっ
てまう前にな。そんでお母さんが、火花は作家になれるよー
ってな。腕こうなる前に賞取れたんやから、これからは絶対
もつとやれるやろ

少年 そうなの？

少女― こうなる前にできたんや。こうなったらもつとす
ごいやろ

少年 そうかも

少女― あのとときな、私ワクワクしたねん

少年 え？

少女― 周りの人はな、もうおしまいやって顔しとったけど
……でも何かが終わるってことは、何か始まるってことや
ろ？ 私は、私の左手以外は、あれに勝ったんや

少年 ……

少女― かつこよく撮ってな。かつこ悪かったらあかんから

そこに火花の祖母、初枝がやってくる。

初枝 火花、こんなところにおったんけ

少女― ……

初枝 帰りが遅いもんだで心配したがね

少女― 別にちよつと寄り道しただけやん

初枝 この子、友達かね？

少女― こんなん友達でもなんでもない

初枝 火花と仲良おしてくれて、ありがとねえ

初枝、鞆から何かを取り出して道久に握らせる。

少女― だから友達やない

初枝 また遊んだってね

初枝が火花に付き添いながら、去っていく。道久はしばらくそれを眺めているが、やがてゆっくりと息を吸って大きく声を上げる。

少年 火花さん！ 明日、写真持ってくるから！

少女― 火花でええ

少年 え？

少女― 火花でええよ、道久！

少年 ありがと、荻窪火花さん！

少女― 死ね！

火花と初枝が去る。少年時代の道久がそれを眺めていて、そんな彼を大人になった彼が眺めている。握りしめた掌を開ける。

少年
手の中にあっただのは百円玉で、僕は少し離れたゲームセンターの近く、まだ百円で買える自販機まで行って、ファンタを買った。量が多くて帰り道では飲み切れなかった。明日持っていく写真と、これからどんな写真を撮りたいかを考えた。ランドセルを背負っていたらカッコいいかなと思って、そのときようやく、火花はランドセルを背負っていなかったことに気付いた

舞台は突如として、道久の家に。そこは商店街の小さな写真屋である。
道久の父、哲男が一人で店番をしている。

哲男
いらっしやい……（気付いて）なんだ道久か

少年
ただいま（ファンタを飲む）

哲男
お、ええもん飲んでるが

少年
んー

哲男
お父さんにも一口ちよ

少年
やだ

哲男
ケチ

道久は無言でファントアを哲男に渡す。

哲男
お前は優しい子だわ

少年
少しな。少し！

哲男、ファントアをうまそうに飲み、道久に返す。

哲男
今日朝から忙しくてな。染みるわあ

少年
お父さん、飲みすぎ

哲男
あ、そうだ。この前はあちゃんち行ったときな、道久にとって小遣いもらったんだわ。なんか買ってほしいもんあるか：：あ、ポケモン欲しい言うとしたか

少年
カメラ。余ってるやつがあったらいいから

哲男
カメラ？ お父さんが昔使ってたんでええならやるけど：：そんなんではええんか？

少年
カメラがええ

哲男
この前、インスタントのあげたばっかだが

少年
もつとちゃんと撮れるのが欲しい

哲男

ほうか

少年

撮りたいものができた

哲男

じゃあ……（カウンター近くの棚を少し探し、やがて大きく使い古されたアナログカメラを手にする）こんなのでどおや

道久は父からカメラを受け取り、ファインダーから世界を覗く。

少年

——瞬間。頭の中に浮かんでいたのは、大きな地震が来て何もかもが無茶苦茶になっている光景。「カメラのトウゲ」の看板が掛かった僕の家は傾いて、電信柱にもたれかかっている。前の道の横断歩道には根元から折れた信号機が倒れている。隣の笹原さんのお家は一階が崩れて瓦が道に流れ込んでいる。散らかったおもちゃ箱のような町で、片腕の火花が胸を張って立っている。全部を逆さまにした巨大な何かに完全に勝利した火花がいる。それをなんとか写真で撮りたいと思って……すぐに、きっと自分は瓦礫に埋もれて死んでしまっているだろうなと思った

少年

火花は今どうしているだろうと思った

火花の家。初枝と少女時代の火花がテレビを見ている。うっすらとあなたの耳にはニュースの音が聞こえるだろう。

「……七時のニュースです。阪神淡路大震災から本日で一年半。神戸市東遊園地では本日、」

そこに祖母の初枝がやって来る。彼女は何も言わず、テレビのリモコンでチャンネルを変える。罪のないバラエティ番組の音が聞こえる。よく耳を澄ませれば、「マジカルバナナ」をしている音だと分かる。

少女―　　なんてチャンネル変えよんの

初枝―　　いや、ニュースなんかつまらんかと思って

少女―　　別にええけど

火花、チャンネルを戻す。すぐに初枝がチャンネルを更に戻す。

少女―　　え、なに、これが見たいん？

初枝―　　いや別に見たいわけじゃにやあけど

少女―　　じゃあなんでチャンネル変えたん？

初枝―　　見たい！　おばあちゃんこれが見たいんだわ！

しばしの間。

うっすらと耳をすませれば、あなたにはテレビの音が聞こえるだろう。

軽快な音楽、

笑い声、

笑い声、

笑い声

初枝 香織がなー、テレビ好きでな

少女 | ……

初枝 よお宿題ほっぽりだして、テレビばーっかり見とった

少女 | ……

初枝 早よお、見つかりやええけど

少女 | 死体見つかったってしやあないやん

初枝 死体って火花

少女 | ……

初枝 ……

少女 | ばあちゃん。…お母さんは死んだで

初枝 いやあきつと生きとる

少女 | もう生きとるわけないやん

初枝 死んどるとも限らんがね

少女 | 死んだ！ 死んだ！ 死んだんや！

初枝、思わず火花の頬を打つ。火花、黙る。

初枝 (我に返って) ……ごめん火花

少女 | 私は間違ってるへん

初枝 | じゃああんたなんかもう知らんが!

初枝は言い捨て去る。

テレビからはまだバラエティ番組の音声が続いている。

火花がチャンネルを変えると、再びニュースの音。

まだ阪神淡路大震災のニュースがやっている。

「…：…：昨年の震災によって市内の観光施設や交通手段は大きな被害を受け、」

火花、しばらくそれを眺めた後、テレビを切る。

何も映っていないテレビに向けて唐突に怒鳴り散らす。

少女 | 今に見てる! 今に見てるよ! 今に見てる!

テレビのリモコンを乱暴に床に叩きつける。その拍子にテレビが再び点いてし

まう。「…：…：夜祭では被災地を応援するため全国の」火花はもう一度、苛立たしげ

にテレビの電源を切る。

少女― 死ね！

火花が去る。代わりにやって来るのは、カメラを持った少年時代の道久だ。

少年

その日父さんからもらったカメラは僕の宝物になった。次の日撮った火花の写
真は火花からけちよんけちよんに言われたけど、それから火花とは毎日のよう
に遊ぶようになった。その日は僕が二つ大切なものを手に入れた記念日だ。一
つはカメラ。もう一つは友達の火花。大切なものを手にすると、いつもそれと
別れる日のことを考えてしまう。

父さんからカメラをもらったとき、いつかそれを壊してしまう日が来るんだと
思って寂しくなった。でも火花は違う。火花は死なない。僕は地震で死んでし
まうだろうけど、火花はきつと死なない。僕は夢中になって火花の写真を撮っ
た。火花と一緒にいないときはそれ以外のものをなんでも撮った。花を、空
を、夜を、クラスメイトを、学校を、道を、なんでも撮った。そしてそんな写
真のおかげでもう一人友達ができた

シャッターを切る。

【映像あるいは群読】

平成八年七月二〇日

アトランタ五輪開催。柔道女子 田村亮子、銀メダル

平成九年四月一日

消費税増税。3%から5%に

平成九年五月二七日

神戸連続児童殺傷事件。中学校正門に、切断された男児の頭部を遺棄。加害者は当時一四歳の中学生の少年

平成九年一月一九日

映画タイタニック公開。世界最高興行収入を記録

平成一〇年七月二五日

和歌山毒物カレー事件。六七名が急性ヒ素中毒になり、うち四名が死亡。平成二一年最高裁で死刑確定

平成一一年二月二二日

N T T ドコモ、i モードサービス開始

平成一二年九月一五日

シドニー五輪開催。高橋尚子が日本の女子陸上競技として初の金メダルを獲得

平成一二年一月三〇日

イチロー、シアトル・マリナーズと正式契約。日本人野手初のメジャーリーガー

平成一二年一月三〇日

世田谷一家殺害事件

平成一三年四月二六日

小泉内閣発足。同年八月、靖国神社に参拝

式幕 平成一三年八月二十九日

「カメラのトウゲ」店内。式幕からは五年の時間が経ち、店内のラインナップも変わっている。デジタルカメラの印刷用にパソコンが置かれ、カメラの売り場は狭くなった。

哲男が一人で店番をしている。暇な時間帯なのか、ぼおっとテレビを見ている。

うっすらとその音が聞こえる。

「……日本中で話題沸騰中！ 東京デイズニーシー！ いやいよ来週、九月四日にオープンです。今回は皆さんより一足早く、当番組スタッフが独占取材！ 東京デイズニーシー！ その魅力を大、大、大解説！」
そこに、一人の少女（少女時代の歩鳥。少女2）がやってくる。

哲男は慌ててテレビを消す。

哲男 はい、いらっしやい

少女2 ……（びくびくとしている）

哲男 あれ、お嬢ちゃん、お母さんは？

少女2 え、あ、あ、あ、あの、一人、一人で、一人、一人で、来ました、これ！

少女2、アナログカメラを取り出し、差し出す。

哲男 ああ、現像でええかな

少女2 は、はい！

哲男 プリントは一枚ずつでええ？

少女2 はい！

哲男 えーと、今なら……四時くらいにはできるで、それ以降に来てな。明日とかでもええから

少女2 はい！ あ、あ、あ、あ、あ、あ、あの……ここで待っててもいいですか？

哲男 え……いやええけど、なんもないけど

少女2 (無言で首を横に振る)

哲男 あ、ひよっとしてカメラ好きなの？

少女2 (無言で首を縦に何度も振る)

哲男 そう……まあ、そんな無いけど。それでええなら見てって

少女2 は、は、はい！ (店内をきよろきよろと見回している。やがて、) あ！ ……
デジタルカメラ……

哲男 お、よお分かるね

少女2 ……

哲男 うち、一応、デジタルの現像もできるで。ここらへんだと、うちだけだわ

少女2 (無言で頷いている)

哲男 ちよっと前に入れたばっかだで。まあ、全然使っとらんけど、あっはっはっは
っは

少女2 ……

哲男 じゃあ、好きに見とって。(奥に向かって) 道久あー!

少年 んー?

奥から、子供時代の道久が登場する。

哲男 ちよっと現像しとるで、店番頼んでええか

少年 んー

哲男 なんかあつたら呼んでな

哲男がはける。

舞台には道久(少年)と歩鳥(少女2)の二人が取り残される。

少年 (急に) こんにちは!

少女2 え!! あ、あ、あ、あ、あ、こ、こんにちは!

少年 あれ、

少女2 え?

少年 二組の人だ。あれ、なんだっけ。二組の人だよね

少女2 え、えと、え、はい、二組。六年二組、です

少年 なんだっけ……えーっと、(閃いて) 歩鳥! 歩鳥さん! 平坂歩鳥さん!

少女2 はい、平坂、歩鳥です。はい

少年 平坂歩鳥さん

少女2 はい、平坂歩鳥、です……ありがとうございます。峠道久……君

少年 あ、名前知ってた

少女2 はい

少年 ありがとうございます

少女2 はい

少年 歩鳥さんも写真好きなの?

少女2 いやその……好きというか、好きですけどその……

少年 良かったら写真見せてよ

少女2 (ものすごい勢いで首を横に振り続ける)

少年 (少し残念そうに) そっか

少女2 ……道久、君、

少年 ん？

少女2 その……職員室に飾られてる写真

少年 え

少女2 女の子の写真。あれ、道久君の写真、ですよ

少年 そう、だけど

少女2 うん

少年 よく知ってたね

少女2 犬養先生に聞いたの。その、素敵な写真だったから

少年 へー

少女2 うん

少年 (唐突に、)わ！

少女2 え、

少年 (胸に手を当て)嬉しい！

少女2 ああ、……(嬉しそうに)あ、うん

少年 嬉しい。そんなこと言われるの

少女2 (とても嬉しそうに)うん

少年 ありがとう平坂歩鳥さん

少女2 うん。……私もその……ありがとう

少年 ? 何が？

少女2 名前で呼んでくれて
少年 名前？
少女2 みんなは私のこと転校生って呼ぶから
少年 あー
少女2 うん
少年 でも歩鳥さんの名前は歩鳥さんだから
少女2 うん
少年 転校生じゃなくて歩鳥さんだから
少女2 ありがとう……その
少年 なに？
少女2 良かったら、ごめんなさい、えと……歩鳥って呼んでほしい、です……かも……
少年 ……その、です。うん
少年 歩鳥
少女2 ありがとう
少年 歩鳥歩鳥歩鳥歩鳥
少女2 (笑って)ありがとう
少年 道久って呼んで、僕も
少女2 道久道久道久
少年 (笑って)ありがとう

少女2 道久の写真、すっごく私好き

少年 ありがとう

少女2 あの写真の子は友達？

少年 うん。火花。僕の友達。

少女2 同じ学校の子？

少年 ううん。学校は違うんだけど友達なの

少女2 へえ

少年 うん

少女2 あの

少年 うん

少女2 いやその何でもないです

少年 そっか

間。

少年 歩鳥さん

少女2 え、あ、はい

少年 あ、ごめん、歩鳥

少女2 いやその、ありがとう、ごめんなさい、その

少年 今度三人で遊ぼうか
少女 なんかその女

公園。気が付けば、幼少期の道久と火花だけがいる。

少年 二組の歩鳥。友達になったの

少女 なに呼び捨てにしとんの

少年 呼び捨てがいいって言うから

少女 なんかその女

少年 二組のほと

少女 (間髪入れず) 死ぬ

少年 あ、ごめん

少女 え、なんで私がそいつと遊ばなあかんの？

少年 会いたって言うから

少女 死ぬ

少年 火花も友達はいっぱいたほうが嬉しいかなって

少女 友達なんて道久一人おればええやろ

少年 (急に) わ!

少女 わ、びっくりした

少年 嬉しい

少女 | は？

少年 (お互いを指差して) 友達

少女 | は、きも

少年 ∴∴ (道久はただニコニコしている)

少女 | きつも

少年 友達、友達

少女 | ∴∴とにかく私は嫌やからな

少年 どうして嫌なの？

少女 | 女は嫌いや

少年 男が好きなの？

少女 | 男も嫌いや

少年 僕は？

少女 | お前のことは大嫌いや！

少年 ∴∴ (道久はただニコニコしている)

少女 | ∴∴そいつ転校生なんやっけ

少年 うん

少女 | どこから来たん？

少年 えと、いっぱい引っ越してるらしいけど∴∴ここに来る前は東京？

少女― 顔は？

少年 顔？

少女― どんな顔や

少年 どんなって……どうだろ。えと

少女― ……

少年 どんな顔って難しいね。どうだろ、えーと、

少女― かわええか

少年 え、

突然、火花が道久の肩を叩く。

少年 いた！

道久の肩を何度も何度も叩く。

少年 痛い痛い痛い

無言で道久の肩を叩いている。だんだんと熱を帯びていく。

少年 痛い痛い痛い

やがて疲れたのか、火花は道久を叩くのをやめる。
その代わり道久のことを睨みつける。

少女 | 道久は、痛いって言うけどやめてとは言わんな

少年 え、

少女 | なんてやめてって言わんの

少年 なんてって

少女 | ……

少年 ごめんなさい

少女 | 分からずに謝るな！

少年 (悲しそうに) ……やめてって言おうと、思い付かなかったから

少女 | ……

少年 思い付かなくて、ごめんなさい

少女 | ……

少年 ……

少女 | 道久、取引や

少年 取引？

少女― そいつと遊んだるわ。その代わり、
 少年 うん
 少女― 花火がしたい
 少年 花火？
 少女― 花火をな、よく家族でしたねん。海行ったときとかな。できる場所があつて。
 コーラ飲みながらな。お父さん、好きだったんよコーラ。……でも、今はばあ
 ちゃんか許してくれへんから
 少年 どうして？
 少女― 火だから
 少年 火？
 少女― 火だからや、火だから駄目なんやって！ ……ばあちゃんがあほやから！
 少年 ……
 少女― あほやから、まだそんなこと言うんや、あほやから！
 少年 ……
 少女― 火やから、あかん、言うんや。あほやから。あほあほあほ！
 少年 ……
 少女― ……花火ならええよ。花火なら、そいつと一緒に遊んだるわ

暗転。

しばしの間。

夜。虫の鳴き声。

暗闇の中。不意にあなたは、三つの小さな光を目にする。

鼻を衝く焦げた夏の匂い。

色とりどりの火花を散らすそれらが、三つの手持ちの花火だとすぐあなたに気付くだらう。

ゆっくりと明かりが点いていく。そこは夜の公園。

少年、少女1、少女2の三人が手持ち花火をしている。その少しだけ離れたところで、哲男が三人を見守っている。彼の手にはカメラが一台。道久のカメラだ。それで三人を嬉しそうに撮影している。

少年 (花火を見ながら) おお……

少女1 おお！

少女2 わあ

しばらく、三人は楽しそうに花火をしている。火花は道久に積極的にちよっかいをかけるだろう。歩鳥はそれをなんだかもじもじとしながら見ている。

哲男 (カメラを構えて) はいこっち向いてー

少年 お父さん、撮り過ぎ
哲男 (無視して) はい、ちーず

シャッターを楽しそうに切る哲男。何枚か写真を撮った後、道久にカメラを返す。それを確認した後、歩鳥がおずおずと声をかける。

少女2 あ、あ、あの……

哲男 ー？

少女2 すみません。(アナログカメラを差し出して) これでも……いいですか
哲男 勿論。現像は是非、うちでやったって

少女2 はい！

哲男 ほしたら歩鳥ちゃんのカメラでもう一枚

少年 お父さん、撮り過ぎ

哲男 (無視してカメラを構え) 皆もつと笑ってー

再びシャッターを切る。仕事柄か、何枚も設定やアングルを変えて哲男は写真を撮り、カメラを歩鳥に返す。歩鳥は受け取ると、今度は鞆を手にして、

少女2 あとこれ……お母さんが皆でって

少年 ジュースだ！
哲男 ああこれは。ありがとう

靴から出てきたのは四本のジュースの缶と、ちよつとしたお菓子の類。
道久、火花、哲男がそれぞれ缶を取る。歩鳥は残った缶（コーラ）を何とはなしに手に取って見ている。
歩鳥以外の三人は、プルタブを開け、飲み始める。火花は地面に缶を置くと、器用に片腕で押さえつけながらタブを開ける。それを歩鳥は見ているが、すぐに目を逸らす。

少年 （唐突に）あ、

哲男 ん？

少年 アイス

哲男 ん？

少年 お父さん、家にアイスあったよね

哲男 え？ ああ買ったったな

少年 持ってくる

哲男 え

少年 お返し！ お返し！

道久、子供らしく走って家の方へ走って行ってしまおう。

哲男
おい、鍵かかっとするぞー

道久はもういない。

哲男
（ぼそっと）あいつ……来年から中学だろ……（二人に）ごめん、ちょっと行

ってくるわ。すぐ戻るで

少女2
は、はい……

少女1
………

哲男、道久を追って走る。

が、すぐ戻ってくる。

花火用に点けていた蠟燭を消し、チャッカマンを回収する。

哲男
僕戻るまで、火、使ったらいかんでね。ごめんな

哲男が走ってはける。舞台には二人の少女が取り残される。

火花は黙ってジュースを飲む。歩鳥はそれをおっかなびっくり見ている。

少女1 飲まへんの？

少女2 え、

少女1 それ

歩鳥はまだコーラのタブも開けていない。

少女1 片腕がそんな面白いか

少女2 え!! いや、その……いやそのえと……

少女1 ……

少女2 片手で開けられてすごいなって

少女1 は？

少女2 私、缶の、これ、その、開けるの苦手で、両手でも、なかなか開けられないくらいでその……だからえと、火花ちゃん、（急に大声で）あ、火花ちゃんって呼んでもいいですか？

少女1 ……ええけど

少女2 あ、ありがとう

少女1 で、飲まんの？ それ

少女2 え、いやその……
少女1 貸して
少女2 え？

火花は歩鳥のコーラを指差す。歩鳥はおずおずと渡す。
火花、また器用に片手で開けると歩鳥に返す。

少女2 あ、ありがとう

少女1 ……

少女2 あ、あ、あ、あ、ありがとうございます。火花ちゃん……

少女1 あんた、なんか頼んないな

少女2 よく言われます。妹とか、

少女1 え、お姉ちゃんなん

少女2 は、はい、一応

少女1 なのに頼んないなあ

少女2 はい……

少女1 ……東京から来たんやっけ

少女2 え、あ、はい、うん……その、一年くらいだけど、東京にいたの

少女1 生まれたときはどこおったん

少女2 えと、仙台……

少女1 仙台ってどこやっけ、北の方

少女2 うん。東北

少女1 あ、宮城？

少女2 うん、宮城、宮城

少女1 道久のことが好きなん？

少女2 うん

少女1 ……

少女2 あ、今のちがくて

少女1 ……

少女2 今のは、ちがくて

少女1 違うん？

少女2 いや違うというか、その……ノーカン！ ……今のはノーカン！ です！ ノーカン！

少女1 ……

少女1 好きなら好きでええやん、あほらし

少女2 いや、その、今のは違う……違うんです……いえ、その……

少女1 あほらし

間。火花はまた少しジュースを飲む。

やがて、

少女2 ……それにその…私、また転校するから

少女1 ん？

少女2 中学になったら、また仙台に行くの…おばあちゃんちの近くに、今、家を建てていて。だから、違うんです…そのうまく言えないけど…ちがくて…その

少女1 ……

少女2 ちがくて

歩鳥は俯いている。それを火花はじっと見ている。

少女1 ……そのことはもう道久に言うたん？

少女2 (首を横に振る)

少女1 ……

少女2 ……

少女1 ……私も、神戸からこっち来るときは、寂しかったな。別に友達そんなおったわけやないけど。まあ、だからなんやって話やけど

少女2 うん…

少女1 転校しても、また遊びに来たらええやん。道久も……まあ、私も、別に暇やっ
たら遊んだるし

少女2 (露骨に顔を輝かせて)ほんと?

少女1 (照れくさそうに)で、あんた、なんで飲まんの? それ

少女2 火花ちゃん……私、炭酸飲めない

少女1 は?

少女2 ごめんなさい……コーラは、コーラは道久君飲むかって……!

少女1 あほかお前!

少女2 ごめんなさい

自分が持っている、オレンジジュースを差し出す火花。

少女1 ほれ

少女2 え

少女1 ほとんど飲んどらんから

少女2 でも

少女1 コーラが飲みたい! ちょうど、私が! コーラ飲みたくなったらんや

少女2 火花ちゃん……ありがとう(オレンジジュースを受け取り、コーラを差し出
す)

少女― 別に礼を言われることやない

コーラを飲む火花。

少女― コーラな、お父さんが好きだったんよ。懐かしいわ
少年― アイス！ アイス持ってきたー！

道久がアイスを抱えて現れる。少し遅れて、哲男もやってくる。

哲男― 二人ともごめんな。良かったら食べて
少女― おじさん！ 火！ 火つけて！ 早よ花火したい
哲男― ちよ待ってな

四人はまた和氣藹藹と花火を始める。

少女― (花火を見つめて) 綺麗や。綺麗やなあ道久
少年― うん、綺麗だね火花
少女― 私な、火、好きなんよ。ばあちゃんは、あかん言うし……確かに、火のせいだな、あの日、なんもかんも燃えてまったけどな……でも、火を嫌いになつたこ

少年
となんかない。確かに怖いもんやけど……なんやろうな……綺麗なものは綺麗
やかから。街がな、燃えとるときもなんやろ、なんか、シーン、と、心の中だ
け静かであ。ほんのちよつとだけ、ああ綺麗やって、思ったんや
……

火花は火を見つめている。

少女1
なんかな……あれ以来、ずーっと、小さく、くすぶ燻ってる気がすんねん

歩鳥は、それを少し遠くの方から眺めている。飛行機が近づいてくる音。

少女2
その日のことはとてもよく覚えている

少女2
火花は綺麗で、火花ちゃんと交換してもらったジュースも、道久君からもらっ
たアイスもとっても甘くて、空はいい天気で、星がうっすらと見えて、私はた
だただずっと楽しいなって思っていて

少女2
でもちようどその頃、ずっとずっと遠く、一万キロ東。ニューヨークのワール
ドトレードセンタービルにハイジャックされた旅客機が突っ込んだ

一瞬の無音。耳が痛くなるほどの、

瞬間、あなたが目にするのは、大きなビルに飛行機が突っ込む光景、一拍遅れて、轟音。

【映像あるいは群読】

平成一三年九月一日、日本時間二一時四六分。アメリカン航空一一便、ワールドトレードセンター北棟に激突。衝突から一〇分も経たないうちに、火災と黒煙は上層階まで拡大。炎による耐えがたい苦痛により、高層階から飛び降りる人々も現れる。なお、旅客機の乗客乗員は全員死亡。

同日、日本時間二二時〇三分。ユナイテッド一七五便、ワールドトレードセンター南棟に激突。七八階のスカイロビーで避難のためエレベーターを待っていた数百人の多くが即死、または重傷。旅客機の乗客乗員は全員死亡。

同日、日本時間二二時四九分。ワールドトレードセンター南棟が崩壊。二三時一八分。ワールドトレードセンター北棟崩壊。アメリカ同時多発テロ事件による死者数はおよそ三千人。負傷者数は二万五千人以上。

少女2 テレビではその映像が、大きなビルに飛行機が衝突する映像が何度も何度も流れていた。私はそんな映像を見るたびに、怖くて、ただ怖くて、ベッドに入って震えた。まだ幼い妹と、手を繋いで眠った

少女2 ……私はその年、卒業の頃に引っ越して。次に、二人に再会したのは一〇年も後のことになる

歩鳥は自分のカメラを手に取ると、ファインダー越しに火花と道久を捉える。
何も言わずシャツターを切る。

【映像あるいは群読】

平成一三年一〇月二三日 Appleが初代iPodを発表

平成一四年五月三十一日 日韓ワールドカップ開催。日本はベスト一〇に進出

平成一四年九月一七日 初の日朝首脳会談。同年一〇月一五日、拉致被害者五名が帰

国

平成一五年三月二〇日 イラク戦争勃発。同年一二月一三日、フセイン大統領逮捕

平成一五年一二月二五日 アメリカでBSE感染牛を初確認

平成一六年四月七日 イラク武装集団、邦人三人を誘拐。イラクに駐留している自

衛隊の撤退を要求

平成一七年三月二五日 愛知万博開催。来場者数およそ二二〇〇万人

平成一八年一二月一二日 株式会社ドワンゴ、ニコニコ動画サービス開始

平成一九年七月二九日 第二十一回参院選挙。自民党歴史的な大敗。ねじれ国会へ

平成二〇年四月二三日 Twitter、日本でサービスを開始。同年五月、Facebook日本語版サービス開始

平成二〇年九月一六日 リーマンブラザーズ経営破綻。負債総額はアメリカ史上最大の六一三〇億ドル。

平成二一年四月五日 北朝鮮が日本太平洋上に向けて、ミサイル発射実験を実施

平成二一年八月三〇日 第四十五回衆議院議員総選挙。民主党が大勝し、初の政権交代へ

平成二二年九月七日 尖閣諸島付近の海域をパトロールしていた海上保安庁巡視船に中国漁船が衝突

平成二三年二月六日 大相撲八百長問題の影響で、大相撲春場所六五年ぶりの中止

参幕 平成二三年二月二五日

雨が降っている。「カメラのトウゲ」店内。

式幕からは一〇年の時間が経ち、店内のラインナップも変わっている。カメラの売り場は更に狭くなり、アナログカメラはもう店内にはない。哲男が一人で店番をしている。暇な時間帯なのかぼおっとテレビを見ている。うつすらと音声聞こえる。

「……iPhoneのリチウムポリマーバッテリーなら仕事もより長く」
そんな中、店の外。雨の中、傘を差した道久が小走りにかけてくる。
店の軒下まで来ると傘を閉じ、店内に入る。

哲男 (テレビを消して) おお……ありがとな

道久 うん……ああ、さむ

哲男 雨ん中、悪かったな

道久 雪にならんで良かったわ

哲男 ほんで、どうだった

道久 ん、まあ、喜んでもらえたよ

哲男 ほうかほうか

道久 良かったんかな

哲男 ン？

道久 遺影：：あんな風にいじって

哲男 まあ頼まれたんだでええんだろ

道久 そうだけど

哲男 やっぱな：：写真くらいは、ええ風に残したいんだわ皆

道久 まあ

哲男 今は道久がやってくれるようになったで助かるわ。パソコンで、ちよちよだも

んなあ

道久 いや、ちよちよじゃないけど：：今日他になんかあったっけ

哲男 今日は無いわ

道久 最近暇だな。今年、年賀状の印刷も全然来んかったし

哲男 まあもう、時代じゃないでな

道久 ：：：

哲男 ：：：腹減っただろ。なんか作って来るわ

道久 ン

哲男がはける。道久は店内着のエプロンを付ける。そこに扉が開く音。

道久
いらっしやいませ

訪問者は二人の女性だ。一人は二〇代前半（歩鳥）少し緊張した表情、もう一人は高校生くらいに見える（皐月）少女。二〇〇五で音楽を聞いている。

歩鳥
道久
あ、すみませんその、現像をお願いしたくて……
はい

アナログカメラを差し出す。

道久
歩鳥
道久
（受け取って）懐かしいですね。アナログカメラの現像なんてもう、滅多に一〇年前もここで現像してもらったんです
そうですか………（顔を見て）、あれ、

間。

歩鳥
道久
（恥ずかしそうに）わ、分かる？ 道久君

………歩鳥、

歩鳥
うん

道久 歩鳥か

歩鳥 うん、うん

道久 久しぶり

歩鳥 久しぶり。……あ、こっちは妹

皐月 (イヤホンを外して) ……平坂皐月です。初めまして

軽く会釈。道久もならう。

道久 え、今日どうしたの

歩鳥 実は四月からこっちに住むことになって

道久 あ、就職？

歩鳥 うん

道久 へえ、何やるの？

歩鳥 あ、その、看護師さんに

道久 すごいじゃん

歩鳥 (早口で) いやそのまだ正式には試験結果出てないからあれなんだけど一応

道久 看護師かあ

歩鳥 妹もちょうど進学でこっちに。今日は家探しに来てて

道久 そか

歩鳥 会えて嬉しい
道久 うん
歩鳥 道久が継いだの？
道久 継ぐっていうか、まあ父さんまだやってるから、手伝いみたいなの
歩鳥 このお店まだやっててくれたの嬉しい
道久 うん
歩鳥 ……周りは、
道久 まあ商店街は（苦笑）。うちは学校とか取引あるしまだやれてるけど
歩鳥 そっか
皐月 （歩鳥の袖を引っ張って）お姉ちゃん（そろそろ）
歩鳥 （皐月に）ごめん、ごめん。（道久に）五時頃に、取りに戻っていい？
道久 分かった。あ、でもその時間だと病院かも
歩鳥 病院？
道久 あ、お見舞いにちよっと。父さんに頼んどくから
歩鳥 うん、分かった
道久 またこっち来て、落ち着いた頃にでもゆっくり
歩鳥 ありがとう。また

二人がお店から出る。軒先で傘を差したあたりで、

歩鳥 あ、そうだ……道久

道久 うん？

歩鳥 火花ちゃん元気してる？

道久 火花は……

うっすらと喧噪音が聞こえる。

舞台は変わって市立病院。初枝がベッドに横たわっている。

そこに一人の女性がやってくる。二〇代前半に見える彼女は、左手が無い。
荻窪火花だ。ノックもせずに扉を開ける。

火花 ばあちゃん、来たて

初枝 ……

火花 無視すんなや。ついにぼけてもうたか

初枝 ぼけとらんわ

火花 辛気臭い。テレビくらいつけ

初枝 いかんて

火花 は？

初枝 お金かかるんだろテレビ

火花 けち臭い。テレビのカード代くらい、私なんぼでも払ったるわ

火花、テレビを点ける。

火花 ゼリー食べるか？

初枝 いらん

火花 じゃあ冷蔵庫入れとくで、腹減ったら

初枝 ありがとう

テレビからは笑い声が聞こえてくる。二人はなんとなく、それを見ている。

初枝 香織がなあ、ほんとテレビばーっか、見とって……

火花 ばあちゃんまたその話か

初枝 宿題ほっぽり出してテレビばーっか見とったわ、ほんと

火花 ……

初枝 もうすぐ香織に会えるかねえ

火花 ばあちゃん、何言っとなねん

初枝 あっち行ったら会えるかねえって。ばあちゃんそれだけ

火花 ……

初枝 それだけが楽しみだわ

火花 ……母さんは生きとる

初枝 火花

火花 ばあちゃんと言ったんやろうが。母さんは生きとる。なに今更言うとおねん。

生きとるに決まっとるやろが。生きとるわ！ あほ！

初枝 ……

火花 だから、こっちで、会わなあかんねん。せやろ？ こっちで会わなканのや！

初枝 ……

火花 さっさと良おなって、家帰るで？ な？

初枝 ……火花、

火花 なんや

初枝は火花に、何かを言おうとする。

しかし、結局それは口にせず別の言葉を告げる。

初枝 ……何持ってきたんやっけ

火花 ゼリーや！

初枝 ああゼリーか

火花 ゼリーや。ほら、大松屋の

初枝　ゼリーならええわ
火花　∴∴やっぱぼけたか
初枝　ぼけとらんわ

ノックの音。道久が現れる。

道久　（火花に）おお

お、

道久　おばあちゃん、饅頭買ってきたけど食べる？

初枝　饅頭か

道久　うん

初枝　饅頭ならもうわ

火花　食うんか

初枝　道久君、ありがとねえ

火花　∴∴なんか、下で飲み物でも買ってくるわ

道久　ああ、なら俺が

火花　ええわ。ばあちゃんの相手したって

火花が去る。道久、なんとなく椅子に座る。

うっすらとテレビの音が聞こえている。

「……眼鏡が要らない3DのDS！ ニンテンドー3DS 二月二十六日発売」

（初枝に）今のゲームすごいですね。あんなちっちゃいのに、あんな綺麗

………

昔、ゲームボーイってのが欲しかったときがあって。周りの子がみんなポケモンやってるから

ほうか

まあ結局、買ってもらえなかったんですけど

ほうか

………

……道久君、ちょっと頼みたいことあってな

なんですか？

テレビ切ってもらってええか？

あ、はい

道久、席を立ってテレビを消す。

初枝、近くにあった手帳から、何かを取り出し道久に渡す。

初枝　ほんでこれ預かってほしくて

それは一枚の写真である。

道久　……（写真を見ている）

初枝　かわええだろ。昔な、火花と行ったんだわ。お伊勢さん。旅行もほとんど連れてったれんかったけど……これな、私が居のうなったら、お棺と一緒に入れてほしいんだわ

道久　おばあちゃん、滅多なこと言わんでくださいよ

初枝　火花に言うと怒られてまうもんだで

道久　……

初枝　ずっと後になってしまったら、それでもええで

道久　……おばあちゃん、

道久、何かを言いかける。そこに、

火花　（扉の外から）開けてや

初枝、慌てて写真をしまう。

道久が扉を開ける。火花が器用に、缶を三つ片手で持って現れる。

火花 道久、ウーロン茶でええか

道久 うん

火花 饅頭開けるな

初枝 ……ちよつと……お手洗い行ってくるわ

火花 ばあちゃん、立てるか？（駆け寄る）

初枝 ええわ、ええわ

初枝がはける。二人はなんとなくその背中を見守っている。
やがて、

火花 道久

道久 ん？

火花 私、嘘ついてもうた

道久 え？

火花 さっきな、ばあちゃんにな、私、嘘ついてもうた

道久 ……

火花 嘘ついてもうたねん

道久
……

外からは病院の喧騒がうっすらと聞こえる。

道久
——それから二週間後、

道久
火花のおばあちゃんは嘘のように回復して、普通に退院した
火花
死なんのかい！

峠写真館。二人が椅子に座って話している。

道久
え、いや

火花
なんやあいつ、あんだだけ死ぬ感じ出しといて。さっさとくたばればええねん
道久
いや、元気になったならええやんか

火花
退院してもう畑に出とう。あれ、私より長生きするで
道久
まあ元気ならええやんか

火花
よくないわ。なにさっきからええやんええやんってさ
道久
いや……

——瞬間、「ガタガタッ」と、

何かが音を立てて、揺れたのをあなたは感じる。

火花
地震？

——その地震は、この辺りだと、せいぜい、机の上の物が音を鳴らして揺れたり、転がって落ちるくらいで、でも、長く、長く、ゆっくりと揺れた。テレビを点けると、そこには見たことの無い光景が広がっていた

【映像あるいは群読】

平成二三年三月一日、日本時間一四時四六分一八秒。宮城県牡鹿半島の東南東沖を震源にして、東北地方太平洋沖地震発生。マグニチュード九・〇。日本周辺の観測史上最大。震災による死者・行方不明者は一万八千名以上。建築物の全壊・流失・半壊は合わせて四〇万戸以上。

火花の家。

テレビが点いていて、そこからは三・一一のニュースが流れている。
火花がぽつんと一人、それを眺めている。

しばらくして、近くにあったビニール袋を手にとるとげえげえと嘔吐を始める。ニュースの音が聞こえている。

「はい。昨日ここで一人見つかったので……こっちの方も探してみよう。こっち側から水で押されてきたはずなので、この辺にその、行方不明の人がいるんじゃないかって。ここはもともと郵便局があって、横が喫茶店で。はい、もう学校しか残ってないですね」

火花はげえげえと吐いている。

「今日、死体の確認に行きました。学校です。体育館にブルーシートが敷いてあって、並んでいて、一人、一人、顔を確認しに行くんですけど、はい、娘は見つかりませんでした……」

火花はげえげえと吐いている。

「僕はちょうど、仕事に行っていたんで良かったんですけど、でも、結局家に帰れたのは、三日も後で、それで……妻は……妻は……その、駄目でした」

火花はげえげえと吐いている。

やがて、道久がやってくる。道久は無言でテレビを切る。

火花 消すなや（テレビを点ける）

道久 ……（無言でテレビを消す）

火花 勝手に消すなや！

道久 そんな風になってまで見るもんじゃない

火花 見なあかんのや！

道久 見んでええ

火花 見なあかんのや！ あほ！ あほ！

火花、道久を片手で殴る。蹴りもする。

道久 ……

道久はただ黙って、殴られている。やがて、殴り疲れたのか、火花は手を止める。しばしの間。ぽつりと口を開く。

火花 道久はほんまに「やめて」って言わんな

道久 …… テレビを見るのはやめてほしい

火花 ……

道久 しばらく。二、三日だけでいい。やめてほしい

火花 ……

道久 ごめん。でも、やめてほしい

火花 …… 分かった

道久 ごめん…… ありがとう

火花 …… なあ道久。私は負けてへんぞ

道久 うん、負けてない

火花 私は負けてへん

道久 うん、火花は負けてない

火花 ……

道久 火花は無敵だ

火花 ……

道久 負けてない

火花と道久がはけるのと入れ違いに、歩鳥が一人、舞台にふらりと現れる。

再びニュースの音が聞こえ始める。「………救援ボランティアは、町おこし推進

協議会事務局と、市の社会福祉協議会のメンバーによる共同企画で、参加メンバ

ーは現地の映像を交えながら報告を行いました。救援ボランティアにはそのほ

か、NPO法人きぼうコミュニティの会員らも参加しました。救援ボランティアの

スタッフは24日に出発し、25日から27日までの三日間、南三陸町で、」

歩鳥 その地震は、大きな大きな津波を起こして、何もかもを飲み込んだ。私は避難

した高台の学校の屋上からその光景を見ていた。車が、家が、道が、水に巻き

込まれて崩れて流れた。その度に、一緒にいた周りの人たちは、悲嘆の声と、

驚愕の声と、そしてほんの少しだけ興奮の声を上げた。自分の目を塞いでいる

人がいて、家族の目を塞いでいる人がいた。私は……ガタガタと震えながらその光景をじっと見ていた。妹が何も言わず、私の手をそっと握ってくれていた。ネットが繋がるようになってすぐ、何かやれることは無いかと思って、看護師の先輩にメールをした。翌日返って来た返信には「お願いだから経験の無い人は来ないで」と書いてあった。その文章にどう返事をしたのかはあまり覚えていない。ただ、それよりも強く覚えているのはそのメールを書きながら思ったこと

歩鳥、ガラスのコップに水を注ぐと、その水面をじっと見つめ始める。

歩鳥
……私、は、無力、だ

彼女は水面をじっと見つめいている。それが揺れていないかをじっと見つめて
ている。

やがて折り畳み式の携帯電話を開き、耳に当てる。

歩鳥
うん……家族は無事だよ

道久
良かった……

気が付けば舞台には道久もいる。二人は携帯電話で通話をしている。

歩鳥 うん

道久 良かったよ、本当に

歩鳥 お家も、まあ無事。直さないといけない所もあるけど。あ、あと、車は壊れちゃったけど

道久 そうか

歩鳥 うん

道久 でもとにかく良かった無事で。ほんとに。ほんとに

歩鳥 予定より遅くなっちゃったけど、再来週からはそっちに引っ越すことになりそう

道久 何かできることあったら

歩鳥 ありがとう。相談するね

道久 うん

歩鳥 (ふと、存在しない揺れを感じて戸惑い) ねえ、道久
道久 なに？

歩鳥 …… (何かを言おうとする)

道久 …… どうした？

歩鳥 …… (言うべき言葉を退けて) その、電話してくれてありがとう

道久

うん

歩鳥

おやすみ

道久

うん。何かあったら、連絡してくれな

歩鳥

ありがとう。……また

道久

また

電話を切る歩鳥。

しばらくの間。彼女はまた水を見つめる。

歩鳥

………

彼女は水を口にすることなく、テーブルに置かれた水をじっと見ている。視線を、グラスの高さまで下げ、じっと、見ている。

皐月

何してんの？ お姉ちゃん

皐月が現れる。

歩鳥 ああ、ごめん、起こしちゃった？

皐月 (嘘をついて) トイレ

歩鳥 そか

皐月 うん

歩鳥 ねえ皐月

皐月 なに？

歩鳥 揺れてない、よね

皐月 ……

歩鳥 (水面を見つめながら) 今、揺れてないよね

皐月 (姉の手をそっと握って) ……揺れてないよ、お姉ちゃん

歩鳥 うん

皐月 寝れそう？

歩鳥 うん

皐月 あ、二〇〇〇貸そうか。眠れそうな曲も入ってるけど

歩鳥 ありがとう、でも大丈夫だから

皐月 うん

歩鳥 大丈夫だから

皐月 そっか

歩鳥 ……

皐月 テレビでもつける？

歩鳥 いい

皐月 ……ACばかりで嫌になるよね

歩鳥 ね

皐月 揺れてないよ

歩鳥 うん

皐月 ……

歩鳥 揺れてない、揺れてない…

【映像あるいは群読】

平成二三年四月七日 宮城県栗原市・仙台市で東北地方太平洋沖地震の余震発生

平成二三年五月二日 ウサマ・ビンラディン容疑者をアメリカ軍が急襲、殺害

平成二三年七月一八日 女子ワールドカップ、サッカー日本代表初優勝

平成二三年一二月一七日 金正日北朝鮮総書記死去。後継者は三男の金正恩

平成二四年二月二九日 東京スカイツリー竣工

平成二四年一二月二六日 第二次安倍内閣発足

平成二五年六月二二日 富士山が世界文化遺産に登録

四幕 平成二五年九月七日

「カメラのトウゲ」店内。

三幕からは二年半の時間が経ち、店内のラインナップも変わっている。

カメラの売り場はより一層狭くなった。

その代わり、額に入った様々な写真が飾られている。

哲男と道久が店内にいる。その一際大きな写真を、二人は見上げている。

道久 やっぱ……ちよつと大きすぎん？

哲男 いやいやこんなもんこんなもん

道久 額もちよつと豪華すぎん？

哲男 これからこの店の看板になるわけだぞ

道久 いや、看板ってわけじゃ

扉の開く音。店外から、歩鳥、皐月の二人が現れる。

皐月 こんにちは

道久 いらっしやい……ああ

歩鳥 久しぶり……ニュース見たよ

道久 (少し照れくさそうに) ああ、うん

歩鳥 (大きな写真を指差し) あ、これ……だよね

道久 うん

歩鳥 (急に改まって) ……道久。……おめでとうございます

道久 ありがとう……いや、まあ佳作だけどね

歩鳥 でもすごいよ

道久 ありがとう

歩鳥 (店内を見回して) 写真増えたね。これみんな道久のだよね

道久 うん。……結構、撮影の仕事もらえるようになって。半分くらいは趣味のだけ

ど

歩鳥 見てると撮りたくなるね

道久 最近はやってない？

歩鳥 うん。めっきり……でも、折角だしまたやってみようかな

道久 ……

歩鳥 (ショーウィンドウを見ながら) カメラ、減ったね

道久 ああうん。奥にもうちよつとあるけど

哲男 もし良かったら案内するわ

歩鳥 あ、じゃあその……少し見せてもらってもいいですか？

哲男

勿論

哲男、歩鳥がはける。皐月は何とはなしに店内の写真を見て回っている。

道久 写真興味あるの？

皐月 ……いえ。今日は姉の付き添いで来ただけなので

道久 そか

皐月 ……地震の写真だと聞いたので

道久 え

皐月 これ。…お姉ちゃん、地震の写真を見ると、気分悪くなっちゃうことあるか

ら

道久 ……

皐月 ……だからお姉ちゃんには言わなかったんですか？ この写真のこと

道久 ……まあテレビでやっちゃったから意味なかったけれど

皐月 そうですか

道久 うん

皐月 まあとりあえず大丈夫そうなので良かったです

道久 うん

皐月 ……変な感じ。この写真、悲惨な光景なのに……なんとなく前向きな感じ

道久 ……写真やってないんだよね？

皐月 え？ ……はい

道久 一応、そういうテーマで撮ってるから、まあ伝わってるなら嬉しいかな

皐月 ……お姉ちゃん、あれからずっと元気なくて

道久 うん

皐月 まあ元から元気がない姉なんですけど

道久 うん

皐月 でも今日は元気そうで良かったです。嬉しかったんでしょね。あなたが評価

道久 されたの

道久 まあ佳作だけだね

歩鳥と哲男がやって来る。

歩鳥 ねえ道久、その…このカタログとかもらってもいいかな

道久 ああうん、勿論

歩鳥 私、やっぱり道久の写真好きだな

道久 ありがとう

歩鳥 また来るね

歩鳥と皐月が去る。
店内には哲男、道久のまた二人。

哲男 ……（しみじみと写真を見ている）

道久 嬉しそうだな

哲男 そりやあな

道久 俺よりも父さんのほうが喜んどる

哲男 そりやあな

道久 ほうか

哲男 ちよっと出かけてくるわ

道久 ……どこ行くの

哲男 母さんどこ

道久 ああ

哲男 あいつにもな、報告したらなな

道久 うん

哲男 道久のことばっか、心配しとったもんでなあ

道久 俺も行こうか

哲男 ええわええわ。店番しといて

道久 ん

哲男 行ってきます

道久 ……（迷いながらも呼びかけて）あー

哲男 ー？

道久 道、気を付けてな

哲男 お、どうした急に

道久 いや何も。事故多いらしいし、郵便局んとこの交差点

哲男 気い付ける気い付ける。……ほんなら行ってくるわ

道久 ーん

哲男がはける。道久が一人。

テレビを点ける。うっすらと、ニュースの音が聞こえる。
しばらくして火花が現れる。

火花 お疲れー

道久 あ、お疲れ。あれ、妙に今日早いね

火花 今日は仕事休みや。買い物で近く来たでな……あ、（写真に気付いて）

道久 ああ

火花 （写真をしげしげと眺め）こんなでかでかと、たいそうな

道久 いや俺も反対はな？ したんだけど

火花 まあでもおめでとう

道久 うん

火花 (肩を叩いて) やったな

道久 うん

火花 まあ佳作やけど

道久 うん。佳作だけど

火花 ……昔さ、覚えとるか？ 確か最初会ったとき。私が小説家になったら、お前

の写真使ってやるってな

忘れたことなんて一度も無いよ

火花 は？ きも

道久 あ、ごめん

火花 お前そんなきもいから友達おらのやで

道久 ごめん

火花 ……私はもう、小説なんか書かなくなってもうたけど、道久は続けて結果出し

たんやなあ

……うん

火花 まあ佳作やけど

道久 佳作だけど

火花 (ふとテレビを見て) ……道久、音上げて

道久 え
火花 テレビ
道久 ああ

リモコンで音量を上げる。ニュースの音が大きくなる。

「……本日アルゼンチン、ブエノスアイレスで開かれた第一二五回HOCの総会で、第三十二回オリンピックの開催地に東京が選ばれました。東京での開催は第十八回大会以来、五十六年振り。開催地は東京都の他に」

道久 オリンピック……
火花 オリンピックか……え、いつ？
道久 えーと二〇二〇年
火花 二〇二〇年っていつや
道久 七年後……かな
火花 七年……うちら三十一か
道久 あー、三十一か
火花 そんな先のこと想像つかんな
道久 そうな
火花 でも、まあめでたいな

道久 うん

火花 景気も良おなるやろし

道久 うん

火花 オリピックなんかあったら、写真の仕事なんか増えるんやない？ ほら、広

告、どこも打つやろうし

道久 いやでも、愛知じゃな

火花 でもオリピックやで？

道久 まあオリピックだもんな

火花 見に行くか？

道久 え

火花 一緒に見に行くか。もう、私ら生きとる間には日本でやらんやろ

道久 ああそうかもね

火花 今日はいいニュースばっかで気分ええな

火花、気分良さそうに笑っている。

道久、唐突に深呼吸（しかもぎこちない）を始める。

火花 ん？ どした突然

道久 いや、落ち着こうって

火花 なんやそれ、きも

道久 あのさ火花……実は最近、結構撮影で仕事もらえるようになってきててさ

火花 お、そやな？ めでたいな

道久 一応、今回のので、ちよっと大きめの仕事の話も出てきてて。店の仕事も入れる

と、多少その、財布状況が良くなってきているというか

火花 そうなんか、最高やん

道久 でさ、その……えーとさ

火花 なんやまどろっこしい

道久 ……結婚……しませんか？

間。

それはそれは恐ろしい、間。

火花 ……は？

道久 そのつまり……俺と結婚……していただけませんか？

火花 ……

道久 ……

火花 は、結婚？

道久 ……うん

しばらくの間。二人は見つめ合っている。
突然、沈黙に耐えかねて火花は笑い出す。ついでに殴るなどする。

道久 痛い痛い

火花 ほんまあほ！ お前、ほんまあほやなあ！

火花は笑っている。

火花 ……それで、いくらあるんや

道久 え、

火花 最近儲かってきとるって、いくらくらいあるんや

道久 一〇〇万くらい

火花 一〇〇!!

道久 いやごめん、ほんとうは八〇、くらい

火花 八〇…八〇なあ

道久 うん

火花 はー、あほらし、なんやこのタイミング

道久 ごめん火花

火花 ……五〇〇や

道久 え

火花 そんなくらい貯金無いとばあちゃんにも恥ずかしくてよう紹介できん。五〇〇万くらい貯めな

道久 ……

火花 五〇〇万貯めたら、お前と…道久と…け、結婚したるわ

道久 五〇〇！ 五〇〇な！

火花 (ちよっと引いて) お、お

道久 分かった貯める！ すぐ貯める

火花 いやすぐは貯まらんやろ

道久 頑張る。俺すげえ働くよ

火花 ゆっくりでええよ、待っといたるから

道久は一人でガッツポーズなどしてとても喜んでいる。

火花 お前、ほんとそういうのちよっと直した方がええで。きもいから

道久 直す！ そしてお金も貯める

火花 ……おお

道久 待っててな。頑張るから

火花 待ったいたる。待ったいたる

火花、「ししし」と、悪戯気に笑う。

火花 その代わり……一円もまけたらんからな

道久 頑張る。めっちゃ頑張る。五〇〇な

火花 五〇〇や

道久 五〇〇……！

火花 オリンピックとどっちが早いかね

【映像あるいは群読】

平成二六年三月三一日 笑っていいとも放送終了

平成二六年四月一日 消費税増税、5%から8%へ

平成二七年六月一七日 改正公選挙法可決。選挙権年齢を一八歳に引き下げ

平成二七年九月一日 オリンピックエンブレム盗作疑惑により白紙へ

平成二八年七月二二日 ポケモンGO 日本でサービス開始

平成二八年一月三一日 男性アイドルグループSMAP解散

平成二九年一月二〇日 第四十五代米大統領にドナルド・トランプ就任

平成二九年一月二五日 将棋棋士、羽生善治、史上初の永世七冠達成

平成三〇年七月六日

オウム真理教事件に関与した死刑囚一三人のうち、元代表・麻原彰晃を含む七人の死刑執行

平成三〇年十一月一九日

日産自動車会長 カルロス・ゴーン、有価証券報告書の虚偽記載容疑で逮捕

平成三一年三月二一日

米大リーグ、マリナーズ所属のイチロー外野手、現役引退を
発表

伍幕 平成三一年四月一日

「カメラのトウゲ」店内。

道久の撮った写真はますます増えた。

デジタルカメラのスペースは更に小さくなり、代わりに少しだけアナログカメラのスペースが復活している。

道久と、火花、そして哲男がテレビを見ている。

うっすらとその音声が聞こえてくる。

「菅官房長官が会見に現れました。平成に代わる新しい元号は何になるのでしょうか」

火花 お、

道久 お、お、

更に音声が聞こえる。

「先ほど、閣議で、元号を改める政令、及び、元号の、呼び方に関する内閣告示が閣議決定されました」

火花 おい、早よ言え

道久 あ、なんか

火花 お盆？ なにあれお盆？

道久 賞状入れるやつ

火花 道久、音上げ

静寂。三人はテレビを見つめている。

「……新しい、元号は、令和であります」

火花 れいわ、

道久 れいわ、

哲男 れいわ？

火花 え、どういう字？

道久 (テレビを覗き込む)

火花 邪魔で見えへん

道久 (退く)

火花 お前やない、ワイプやワイプ！

ワイプが消え、三人はテレビの中で映し出される「令和」の文字を見る。

道久 あ、
火花 あー
哲男 はあー
火花 令和、な
哲男 また和か
火花 けったいな
道久 (ほぼ同時に) かつこい
火花 え？
道久 え、かつこい だろ 令和
火花 いや ダサイ やろ？ え、ダサイ よな？
道久 えー、いいけどな
火花 お前頭 おかしい やろ。え、お父さん どう思い ありますか？
哲男 え、僕？ えーと、
火花 ……
哲男 まあ、普通、かな
火花 子が子なら 親も 親や
哲男 ええ…
火花 とぼけた 親子や

哲男 ……まあ、僕的にはこう、新元号で盛り上がれるのが嬉しいわ
道久 ふーん

哲男 平成に変わったときは、その、崩御の直後でなあ、まあーそんな盛り上がれる
雰囲気じゃなかったでなあ

道久 あー

哲男 そのころ、道久はまだ瞳のお腹の中におってなあ。僕は僕で大変な時期で

道久 (興味なさそうに) へー

火花 (興味なさそうに) へー

哲男 おし、(立ち上がり) 見るもん見たし納品行ってくるわ

道久 ン。あれ、納品あったっけ

哲男 笹原さんちだわ

道久 あー

哲男 いやー、まさかアナログカメラが逆に売れる時代が来るとはな

道久 とつといて良かったな

哲男 ほんとだわ(笑う) あ、そうだわ、道久

道久 ン

哲男 この前片付けとつたらこんなもん見つけてな

カメラを棚から取り出す。

道久 うわ、懐かし。まだ動く？
哲男 動く動く、この頃のカメラは丈夫だわ……じゃあ行ってくるわ

哲男、カメラを渡しはける。

道久 火花、覚えてる？

火花 ん？

道久 これ、最初に使ってたやつ

火花 はー、こんなごつかったっけ。え、何年前？

道久 えーと、もう二〇年以上前か

火花 二〇年か……経ったな

道久 経ったな

笑い合う。やがて、

道久 令和かー

火花 令和かー

道久 平成終わるのか

火花 私、平成は終わらんのやって思っった
道久 俺もだわ

静寂。

道久 火花

火花 ん？

道久 (言うべき言葉を避け) ……おばあちゃん元気か？

火花 ん、ああ、予定通り来週には退院や

道久 ほうか

火花 病院と家の往復みたいになつとるけど、まあ歳やしなあ

道久 ……

火花 でも一人暮らしも気楽でええわ

道久 ほうか

火花 うん

道久 (いよいよ決意して) ……荻窪火花さん

火花 なんや改まって

道久 実はその…えーと…

火花 まどろっこしいねん！　しゃきつとせえ！

道久 ……五〇〇万円、貯まりました

火花 え、

道久 （懐から、指輪を差し出して） ……俺と、結婚してください

火花 ……

道久 ……

間。

それはそれは恐ろしい、間。

火花 え、今？

道久 え、あ、うん

火花 え、なんで？　なんで今？

道久 元号発表したら言おうと思って

火花 無い無い無い無い！　え、お前、五年前からなんも変わっとらんやん

道久 ご、ごめんなさい

火花 そんなで、え？　指輪？

道久 う、うん

火花 選ばせろや！

道久 あ、ごめん

火花 サイズどうしたんや！ ……あ、歩鳥か
道久 う、うん、歩鳥から
火花 あほやお前
道久 サプライズがいいかなって…
火花 ほんまあほや
道久 火花ちゃんにはサプライズきつと喜ぶと思うって歩鳥が
火花 あいつはどあほや。お前ら二人ともあほの極みや
道久 ごめん
火花 ええか道久。サプライズなんてもんはな、贈る側のただのエゴなんやで
道久 本当にごめんなさい
火花 私のことなんも分かってへん
道久 ごめんなさい、ごめんなさい、荻窪火花さん
火花 ……
道久 ……
火花 ……
道久 ……それでその、俺と結婚、
火花 え、この空気でまだ言う？
道久 え、あ、
火花 道久。お前そんなやからやで？ だから友達おらんのやで？

道久 え、あ、……ほんとごめん……なさい

沈黙。

火花はゆっくりと、長い、長い、ため息を吐く。
そして、

火花 ……まあでも、約束やからな

道久 ……！（露骨に顔を輝かす）

火花 ほれ（右手を差し出して）、結婚したるから、ほれ、指輪つけてみい

道久、箱を開け指輪を取り出すと、火花の手を取り、指輪を嵌める。

火花 なんかくすぐったいわ

道久 ……

火花 ……左手やなくてごめんな

道久 ……火花が謝ってるの初めて見た

火花、指輪を嵌められた右手で道久を叩く。蹴りもする。

道久 痛い痛い

しばらく叩いた後、

火花 (ちよつと嬉しそうに) はー、あほらし

道久 ::::

火花 (自分の薬指をジロジロ見ながら) なんか変な感じや:::::なあ、道久、私、片手しか無いから、もう指輪外すこともできひん

道久 :::: (無言で指輪を外そうとする)

火花 (遮って) ちやう

道久 :::: (動きを止め火花を見つめる)

火花 ちやうねん、道久。もう外せへんから、ちゃんと一生責任持てよってことやんな? みなまで言わんと分らんか?

道久 ごめん

火花 死ね

道久 わ!

火花 あん?

道久 (嬉しそうに) 久しぶり、死ねって言われたの

火花 死ね

道久 (笑って) 懐かしい、昔思い出すわ
火花 お互い、そろそろ三〇やな

道久

火花 道久

道久 うん

火花 これからも末長うよろしくな

道久 こちらこそよろしくお願いします

道久 あゝゝゝ (急に) ちよつとここ立って

火花 ん?

道久 (先ほど哲男からもらったカメラを準備しだす)

火花 え、写真?

道久 うん、うん

火花 え、ここで撮るの? 全然雰囲気ないやん

道久 いいよいいよ大丈夫だよ

火花 ……かっこよく撮ってな?

道久 うんうん

火花 え、これ (指輪) 入れる?

道久 入れる入れる

火花 こう? (指輪を見せるようにポーズして)

道久　いい、とてもいい

火花　これ、いざやると恥ずかしいな……大丈夫か？

道久　大丈夫大丈夫

火花　かっこよく撮ってな

道久　撮る撮る。じゃあ……3、2、1、

火花　………

道久　……って言ったら撮るでな

火花　お前ふざけるなよ

道久　……かわいい

火花　きっくくくも！！！！！！

道久　（笑って）撮るよ……3、2、1

道久、シャッターを切る。

間。

気が付くと、光は火花に集まっている。

静止した時間の中、火花はゆっくりと口を開く。

火花　——この夜、大きな地震が来ました

静寂。

火花 揺れを、感じた、瞬間、あ、あのときと同じやって、思って、あのときと同じ

で、本棚が倒れてきて、ちゃんとかえ棒とかしとったのになあ、とか思うて、必死に右手で押さえて、左手があつたらなあとぼんやり思って、

火花 ぼんやり、そう、ぼんやり、不思議なことに妙に私は落ち着いって、世界中

が揺れているのに、なんだか耳鳴りがするくらい、シーンって静かに、感じて、あれ以来、あの日以来ずっと、心の中に、燻くすぶっていた、燻くすぶっていた火、

火花 どん！ と、もう一度、強く、揺れて、本棚が倒れて来よって、どこか、他人

事のように、「あ、」と思って、

火花 「その日が来た」って、なんやら、何故かな、そんなことを思いました

【映像あるいは群読】

平成三一年四月一日、日本時間午後六時四七分一六秒、東海大地震発生。

マグニチュード9.1。最大震度七。死者数は平成三一年四月一〇日時点で、四三四〇名。行方不明者は二万人超。ただしこの行方不明者には、頭部以外の体の一部が見つかっていないものを含む。行方不明者の大半は静岡県駿河湾沖で発生した大津波により家屋

ごと飲み込まれたものだと考えられており、静岡県内に集中している。また夕飯時であったこともあり、各地で大火災が発生。

特に人口密集地帯の多い愛知県西部の被害が多く。名古屋市中村区、中区、千種区、北区、名東区、緑区、北名古屋市、一宮市、豊田市、刈谷市ではそれぞれ記録的な大火災が発生。愛知県内の死者のうち、およそ六割の死因は、焼死。

何かの間違いと思えるほど唐突に、あなたの目の前は真っ暗になる。

暗くなったと認識ができた直後、あるいはその直前に、

「ガタガタッ」と、

何か音が立てて、揺れたのをあなたは感じる。

その揺れは、

音は、

次第に激しくなり、

「ガタガタッ」が、

舞台を、

家を、

街を、

世界を、埋め尽くす。

——やがて、

始まりと同じく理不尽なほど唐突に、その揺れは消える。
重い静寂の後、ゆっくりと明かりがつくと、舞台には喪服姿の歩鳥が一人立っている。

静寂の中、彼女が口を開く。

歩鳥

揺れた。と、感じて、思わず妹の手を取って、抱き寄せた。掴んだのは、妹の左手だった気がします。さっきまで妹がいた空間に食器棚が倒れてきて、目を開けているのが、怖くなって、目を閉じたけどガタガタと何か揺れる音がガタガタと聞こえて両手は妹を抱きしめているから耳は塞げなくて、音をなると聞くまいと、ただ妹の体温を感じることにだけに集中して、私が怖くて震えるときによくそっと手を握ってくれた妹の体はやっぱり温かくて、ああ生きてるなあと思った。揺れている時間はとても長く感じて、終わってからもしばらく、体の動かし方も分からなくて、全部が終わって、ゆっくりと、目を開けると……目を開けると、部屋、は、すごいありさまで、頭が真っ白になって、目の前にいた妹が、「お姉ちゃん、終わった？」って聞いてきて、そのとき、ああ妹は無事だって、私はちゃんと生まれてきた意味があったんだと、きっと私は、生まれて初めてそう思いました

歩鳥、ゆっくりと後ろを向く。

そこには歩鳥と同じく、喪服（和服）姿の火花の祖母、初枝の姿がある。彼女は在りし日、道久に託そうとした幼少期の火花の写真を手に持っている。

初枝

：：火花を引き取ったとき、彼女はまだ五歳でした。まだ小学校に入る前のことです。いつだったか、私が髪を三つ編みに結ってあげたらたいそう喜んで、それ以来、私が毎朝、火花の髪を結ってあげました。火花の手では髪を結うことができませんでしたから。でもね、おかしなもので、髪を結っているときもずっとあの子は無愛想な顔で、おばあちゃんのために髪を結ってやっってるんだって調子で、それが本当に私には可愛く思えてね。朝、彼女の髪を結うことが私の朝の日課で、そして楽しみの一つでした。

ろくに旅行にも連れて行ってやれませんでした。火花が小学校の頃、お伊勢さんに行っただくらいで。香織の：：死んでしまった娘の香織の分まで、長生きしてほしいと、幸せに生きてほしいと、祈ったのを覚えております。一つ目の願いは叶いませんでしたが、皆様のおかげで二つ目の願いは叶ったと私は思っております。お伊勢さんで撮った火花の写真は私の宝物で、いつも持ち歩いていました。遠くに行ってしまった彼女に、せめてもと思い、お棺に入れさせていただきます。

初枝

火花は……故人の火花はまだ二九歳でした。私の半分も生きていません。火花はとにかく感情豊かな、可愛い自慢の孫でした。本日、お集まりいただいた皆様に、せめてお顔だけでも、最後に火花のお顔だけでも見てやってほしかったのですが……どうか皆様、元気だった頃のあの子の姿を思い出して……僥んでいただけます。本日はまことに、ありがとうございます

初枝が去る。入れ違いに皐月が現れる。手にはコンビニの袋。

皐月

……ただいま

歩鳥

おかえり

舞台は歩鳥と皐月の家が変わっている。

歩鳥は喪服を片付けている。

皐月

早かったね

歩鳥

道久、来なかった

皐月

そか

歩鳥

……お風呂沸かしておいたから、先入って

皐月　　いいよ先入って

歩鳥　　……

皐月　　明日も早いでしょ

歩鳥　　……ありがとう

皐月　　お湯使えるようになって助かるね

歩鳥　　ほんとに

歩鳥立ち上がる、そんな彼女を皐月はなんとなくしに見つめている。
ふと、二人の目が合う。

皐月　　（気づいて、）……お姉ちゃんさ

歩鳥　　ん？

皐月　　なんか……なんだろう……綺麗になったね

歩鳥　　どうしたの急に

皐月　　なんか……（言葉を選んで）生きてるって感じがする

歩鳥　　そう？

皐月　　ねえ、まださ、揺れてるって、感じる？

歩鳥　　……

皐月　　……

歩鳥 ……ううん。もう、揺れてない

臯月 ……

歩鳥 お風呂、いただくね

歩鳥 がはける。

臯月 はそれを見届けた後、ペットボトルに入った水を飲もうとして、ふと、いつしかの歩鳥のように存在しない揺れを感じて、戸惑う。

臯月 ……

水を机に置き、しばらくそれが揺れないかを見ているが、やがて水を飲み干すと、舞台から去る。

平成三一年四月三〇日

「カメラのトウゲ」店内。哲男は奥で作業している。
そこに歩鳥がやってくる。

歩鳥
こんにちは

哲男
（奥から急いで現れて）いらっしやい……あ、

歩鳥
お久しぶりです

哲男
道久に会いに来てくれたの

歩鳥
はい……

哲男
今ちよっと、お客さんところ行って。もう戻ってくると思うけど
少し待っていていいですか

哲男
勿論

歩鳥、店内を少し見回す。そして一枚の写真に目を留める。

歩鳥
あ

哲男 それ、よく撮れとるでしょ……道久が撮ったんだわ。遺影にも使ってもらってなあ

歩鳥 ……

哲男 道久はやっぱり、火花ちゃん撮っとるときが一番楽しそうだったわ

歩鳥 そうですね……私が初めて見た写真も火花ちゃんので。そうだ。それで、私たち、仲良くなって、それで……

哲男 ……

歩鳥 それで……

哲男 ……

歩鳥は俯いている。やがて、

歩鳥 すみません、ちょっと色々、（思い出しちやって）

哲男 いやいや、大丈夫大丈夫

歩鳥 このお店が無事で、良かったです

哲男 商店街は寂れてしまったけど、無人のところが多いおかげで火事は起きんかったわ。あっはっはっ

歩鳥 ……

哲男 ちよっと奥で作業しとるけど、何かあったら呼んでな

歩鳥 はい

哲男 一か月、遺影の仕事ばっかだわ

歩鳥 ……

哲男 こんなんで忙しなりたなかったわ。はっはっはっ……

哲男がはける。

歩鳥は火花の写真をもう一度見る。

歩鳥 ……火花ちゃん

しばらくして、

扉の開く音と共に、道久が現れる。

道久 (目が合って) あ

歩鳥 久しぶり

道久 うん

歩鳥 その……告別式来てなかったから、気になって

道久 そうか……

歩鳥 うん

道久 心配かけたな……ごめん

歩鳥 ……

道久 妹さん、大丈夫か

歩鳥 (少しだけ嬉しそうに) うん。だいぶ元気になった

道久 そうか

歩鳥 ありがとう

道久 うん

歩鳥 ……

道久 ……なあ歩鳥、笑わないでほしいんだけど

歩鳥 なに？

道久 あれ、火花じゃないんじゃないかって

歩鳥 ……え？

道久 ほとんど、焼けてたから、分からん、から。偶然、家に別の人がさ、来てたと

かさ、否定はできない。から

歩鳥 ……

道久 いや別のさ、人がな、その、亡くなっても勿論、勿論な、悲しいことだけ

どさ、でも、あれは、ひよっとしたら火花じゃなくて。だからどこか別の場所

で火花は、

歩鳥 (遮るように) 道久

道久 ……

歩鳥 左手、無かったじゃんか

道久 左手無い人だって世の中にはたくさん

歩鳥 (遮って) 指輪してたじゃんか

道久 指輪はしてたけど

歩鳥 ……

道久 指輪は……してたけど。うん……してた。火花、自分一人じゃ外せんからって
言ってる……でも、結局外さずに、そのまま帰って、うん、笑って……それ
で、

俯いている道久。

道久 ごめん

歩鳥 うん

道久 告別式。どうしても出れなかった。ごめん

歩鳥 うん

しばしの間。

道久 ……：…：…：なあ、

歩鳥 うん

道久 昔のことどのくらい覚えてる？

歩鳥 え

道久 俺さ、阪神淡路のときさ、テレビで街が燃えている映像を見て、ああいつか自分も、こうやって終わるんだって思って

歩鳥 ……：…：…

道久 でも火花は違って。火花はあるとき、始まったって思ったって、言ってた。何かの終わりは何かの始まりだって。でもそうなら、もし、何かの終わりが何かの始まりなら、何かの始まりは何かの終わりだ。今、俺はそう思う

歩鳥 ……：…

道久 火花の代わりに俺が死んでれば良かった

歩鳥 道久…：…

道久 火花の代わりに俺が、（絞り出すように）俺じゃなくても…：…誰かが、

歩鳥 ……：…道久

道久 ごめん。…：…歩鳥。でもどうしてもそう思ってしまふ。ごめん…：…火花の代わりに…：…代わりに…：…代わりに…：…俺が…：…お前が…：…俺の父さんが、お前の妹さんが、火花のおばあちゃんが、誰かが、誰もが、世界中の人が、死んでれば良かった。

歩鳥　ごめん……でも……火花一人、生きてれば良かった、火花が……火花には、負けないでほしかった

歩鳥　火花ちゃんは負けてない

道久　負けたんだ

歩鳥　負けてない！　火花ちゃんは負けてない、だって……だって……その……まだ謝ってないから

道久　………

歩鳥　謝ってないから負けてない。まだ負けてないよ

道久　ほうか

歩鳥　負けてない

道久　………

歩鳥、ちらりと視線を壁に向ける。

そこには写真が、道久の撮った火花の写真がある。

歩鳥　私さ、やっぱり道久の写真、好きだよ

道久　………

歩鳥　また、来るね

立ち上がる歩鳥。写真屋から立ち去ろうとする。
その最中、
ふと、気付いて。

歩鳥
ねえ：：明日から令和だね

道久
：：火花がさ

歩鳥
うん

道久
平成は終わらないと思ってたって

歩鳥
うん

道久
俺も、終わらないと思ってた

歩鳥
そっか

道久
うん

歩鳥
私も、私もそう思っていたかも

道久
：：

歩鳥
それじゃあ

道久
それじゃあ

歩鳥がはける。

しばらく、道久は火花の写真を見ている。

道久
………

やがて彼はカメラを、彼女と出会った日に貰ったカメラを手取る。
在りし日のように、ファインダー越しに世界を覗く。

道久 火花の写真を見ながら、ああそうか、火花には「その日」が来たんだと僕は思

った。そして「その日」は、僕のところには来なかったんだとも

道久 来なかった。「その日」は、今にも僕のもとへ落ちて来そうな気がして、でもひ

よっとしたらもう永久に来ないのかもしれないなあ、と、そう、僕は、思った

シャツターを切る。フラッシュの光があなたの目をうつ。

その残像が消える頃、

【映像あるいは群読】

平成三一年四月三十日 皇居、宮殿で退位正殿の儀。第一二五代明任天皇退位

平成三一年四月一日 東海大地震。死者行方不明者は四月三十日時点で約一万八千人

平成二五年九月七日 第三二回オリンピックの開催地が東京に決定

平成二三年三月十一日 東日本大震災。最大震度七。三陸から関東沿岸に甚大な被害

平成二十一年一月二〇日 第四十四代米大統領にバラク・オバマ就任
平成二十年九月一五日 リーマンブラザーズ経営破綻。世界金融不安
平成二十年六月八日 秋葉原無差別殺傷事件。死者七名、負傷者十名
平成一三年九月一日 同時多発テロ。WTCビル二棟崩壊。死者数三千人超

平成一三年九月一日

暗闇。唐突に、
あなたの耳に声が届く。

少年 3、2、1

カメラのフラッシュ。

同時に舞台に明かりと音を取り戻される。

夏。時刻は夜。河原である。

そこにいるのは、子供時代の道久、火花、歩鳥。

それは、三人で花火をしたあの日のこと。

少女 1 どや、道久、かっこよく撮れたか？

少年 ……（カメラを見ていて気付いていない）

少女 1 道久、聞いてんのか

少年 え!! あ、ごめん聞いてなかった

少女1 ほんまぼけた奴や

少年 ごめん

少女1 死ね

少女2 火花ちゃん、死ねは良くないよ

少女1 死ね

少女2 ごめんなさい

少女1 なんて謝るんや、たまには言い返してみい

少女2 (大声で) し、死ねは、良くない、よ!

少女1 (ちよっと驚いて、嬉しそうに) ええやん、ええやん!
あるわ
あ、ありがと
歩鳥は、ガッツは

少女1 ……で、花火の締めっつていえばこれや

線香花火を取り出す火花。

少女1 最後まで残っていた人の願いが叶うからな

少年 これ、じっとしてたほうがいいんだっけ

少女1 そうや。動くと、火、消えてしまうからな

少年 分かった

少女1 じゃあせーの！ で、つけよな

二人が緊張した面持ちで頷く。火花、大きく息を吸って、

少女1 せーの！

三人、一斉に線香花火に火をつける。

舞台は次第に暗くなっていく。

少年 ……

少女1 ……

少女2 ……

三人の顔が花火の炎でうっすらと、あなたには見えるかも知れないし、見えないかも知れない。

いずれにしろ、その光はゆっくりと、ゆっくりと、勢いを落とし、小さくなっていく。

火は小さく、
小さくなっていくが、
まだ、
ゆらゆらと、なんとか光り続けている。
――やがて、

残火

二三

参考文献

平成史（佐藤優、片山杜秀緒 小学館）

平成史全記録（毎日新聞出版）

きみは「ω・一」をしていますか？東日本大震災から一〇年後の物語（細野不二彦、

平塚真一郎、井出明 小学館）